

みんなでふれ合いサロン

上杉地区社会福祉協議会

平成 27 年 9 月 10 日

サロン内容

みなさん思わず笑みがこぼれます✧

みんなでふれ合いサロンは、上杉地区周辺の※みなし仮設住宅にお住まいの方々と地域の方々の交流を目的として平成 24 年度から行われており、今回で 12 回目の開催となりました。この日の参加者は支援者と関係者を含め 100 名程でした。最初に上杉地区地域包括支援センターの職員さんが、参加者の皆さんと肩のストレッチなどの軽運動をした後に「オレオレ詐欺を学ぼう」というテーマで落語家の六華亭遊花さん、仙台北警察署の方のお話を聞きました。落語では、笑いと東北弁を交えて、長者が物売りのおばあさんの巧妙な話術に騙され、茶碗や掛け軸を買わされる『やられ長者』という演目で詐欺の注意喚起を行いました。警察の方からは、実際の事件をもとに作られた DVD と講話により、詐欺の恐ろしさや手口、対処方法をわかりやすく教えてもらいました。参加者の方は「小切手の詐欺も本当にあるのですか?」「詐欺で得たお金は何に使われているのですか?」などの質問をしており、詐欺に対する意識が高いようでした。



後半の昼食はサロンなどを開催する為に企画や準備、片付けなどを行う地域の支援者である福祉委員さんたちの特製ミネストローネが振る舞われました。福祉委員さん手作りの汁物は毎回大好評で、参加者の皆さんは、珍しい料理をおいしく食べながら、近況報告など様々な話で盛り上がっていました。

※みなし仮設住宅とは…ブレハブの応急仮設住宅の設置に加えて、国や地方自治体が民間の賃貸住宅を借り上げ、被災者に応急仮設住宅として提供している。

参加してみて

池田会長さんと福祉委員さんの元気な挨拶に迎えられ始まったふれ合いサロンは、参加者も多く活発な印象を受けました。参加者の中には口コミでサロンに来る方もいると聞き、地域の輪が広がっている様子でした。温かみのある手作り料理を皆で一緒に食べる事により食も進むようです。サロンを開催するためには、福祉委員さんのように地域の方々の協力が重要であり、サロンでの交流を通じて住民の状況の把握や参加者の興味のあること、楽しみにしていることを取り入れ、工夫しながら実施することは大切だと思いました。



👍好評のミネストローネです。

私たちもおかわりしました♪

取材・編集
宮城学院女子大学
内海利保 佐々木紅美